

【現行】東京都自転車安全利用推進計画

○目標（令和7年中）

- 自転車乗用中死者数 18人以下
- 自転車事故発生件数 7,000件以下
- 駅前放置自転車台数 15,000台以下

○目標の達成状況

<自転車乗用中死者数>

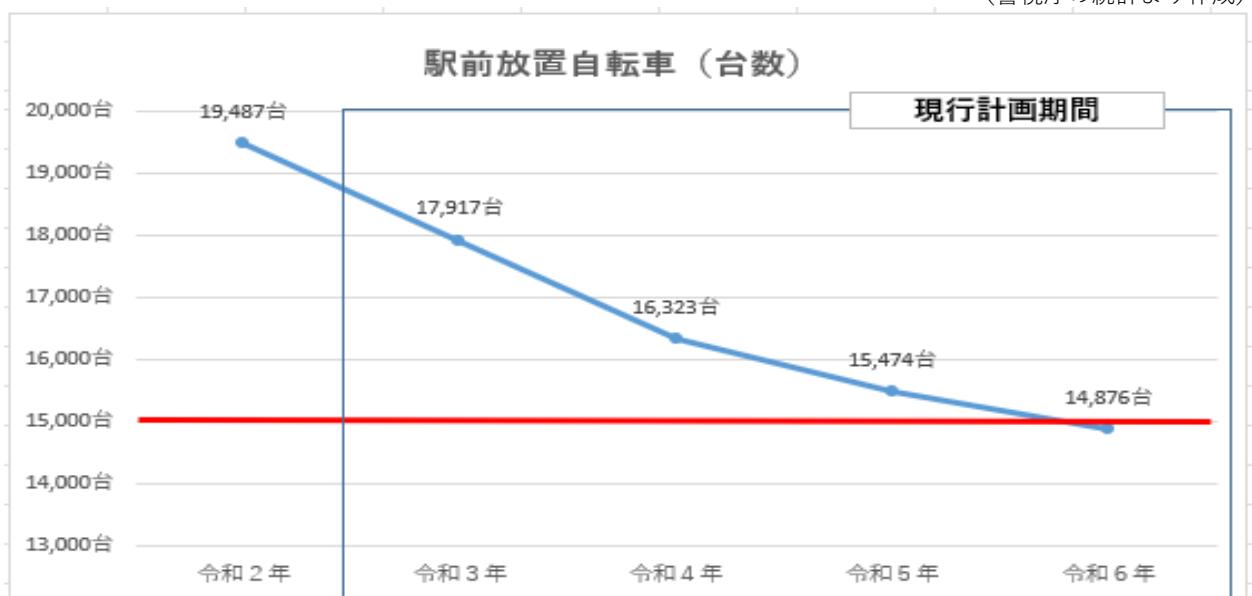
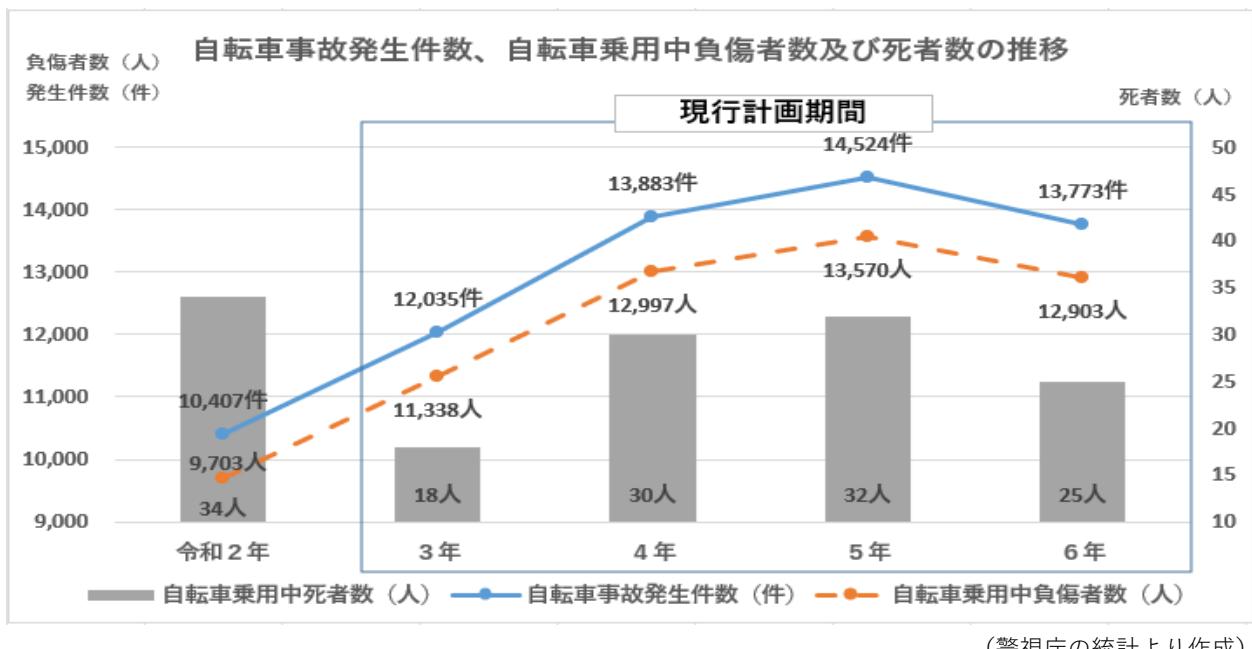
- ・自転車乗用中死者数については、令和6年は減少したものの、目標数値は達成しなかった。

<自転車事故発生件数>

- ・自転車事故の発生件数は、現行計画期間中増加傾向であったが、令和6年は減少した。しかし、目標数値は達成しなかった。
- ※自転車事故件数は、自転車の関与事故件数であり、自転車相互事故は1件として計上

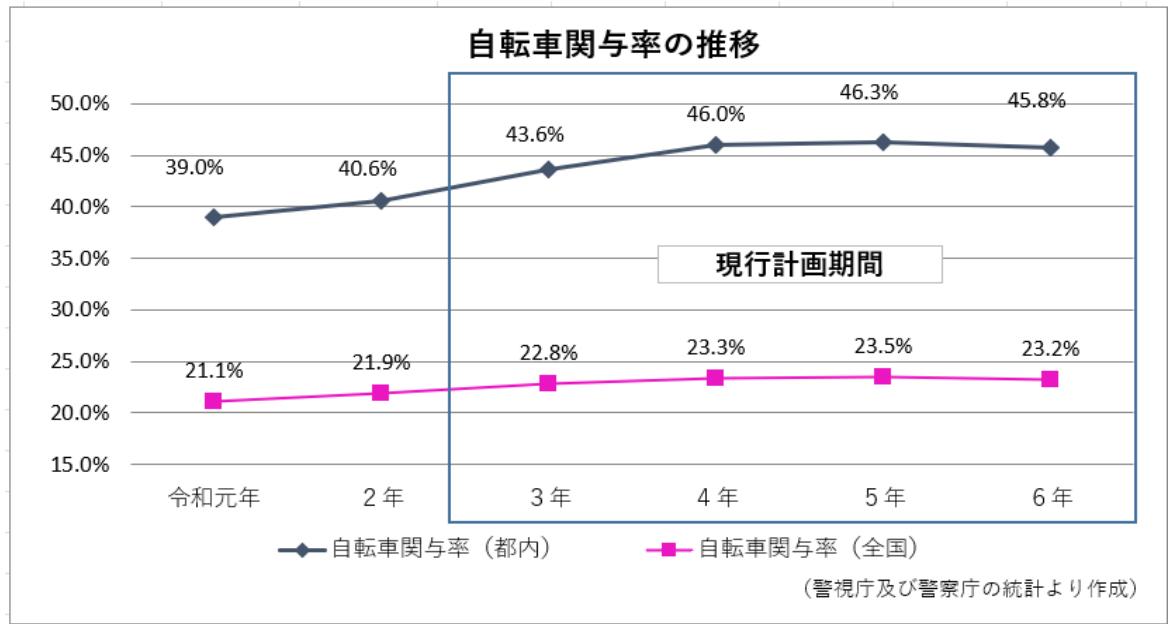
<駅前放置自転車台数>

- ・放置自転車台数は、現行計画期間中、徐々に撤去されたことで、令和6年度末には14,876台になり、目標数値を達成した。

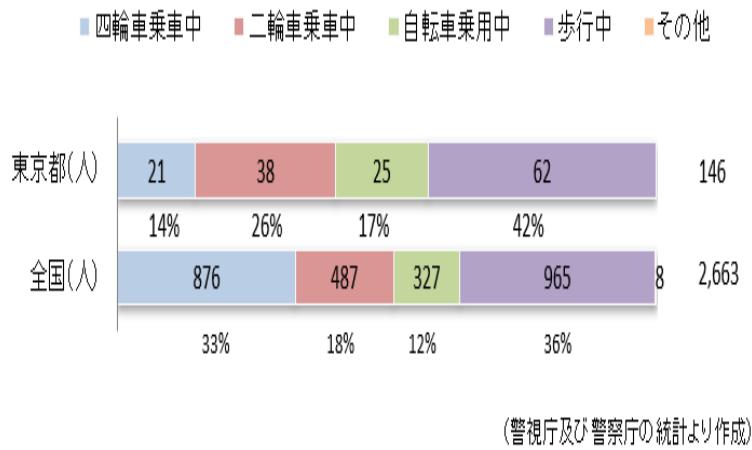


○自転車事故の特徴（自転車関与率）

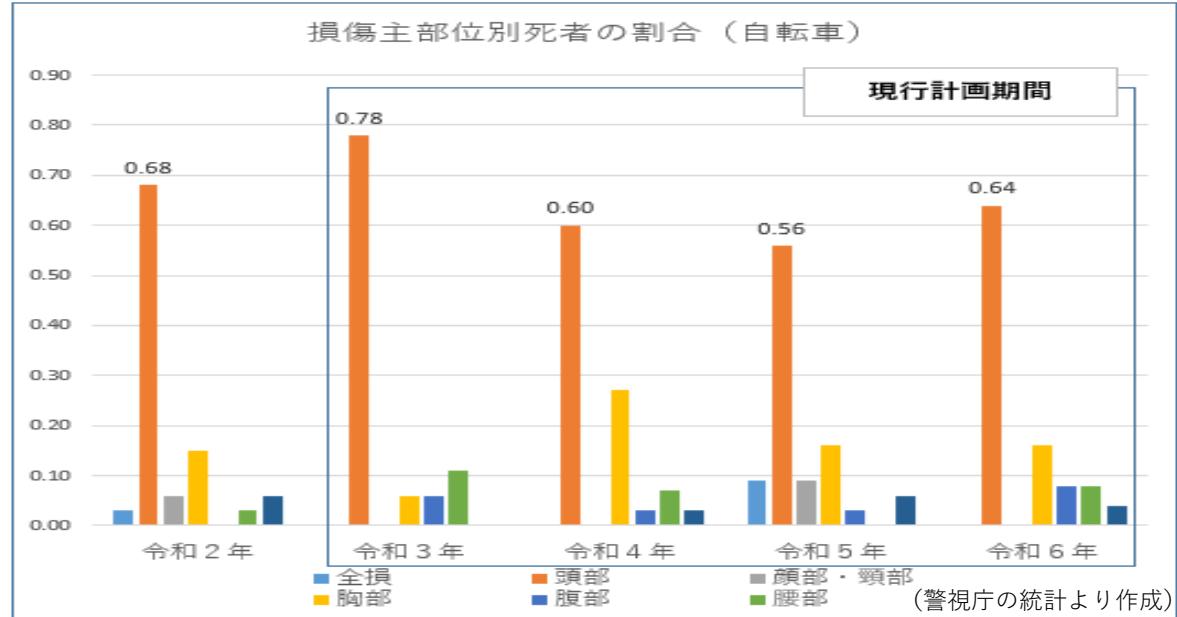
- ・都内では、事故に占める自転車関与率が4割を超える全国平均と比較して高い（全国：約2割）。
- ・都内では、二輪車、自転車乗用中、歩行中の死者の割合が全国と比較して高い。
- ・自転車乗用中死者のうち、頭部損傷が主因の死者が7割弱



状態別死者数(都・国 令和6年)

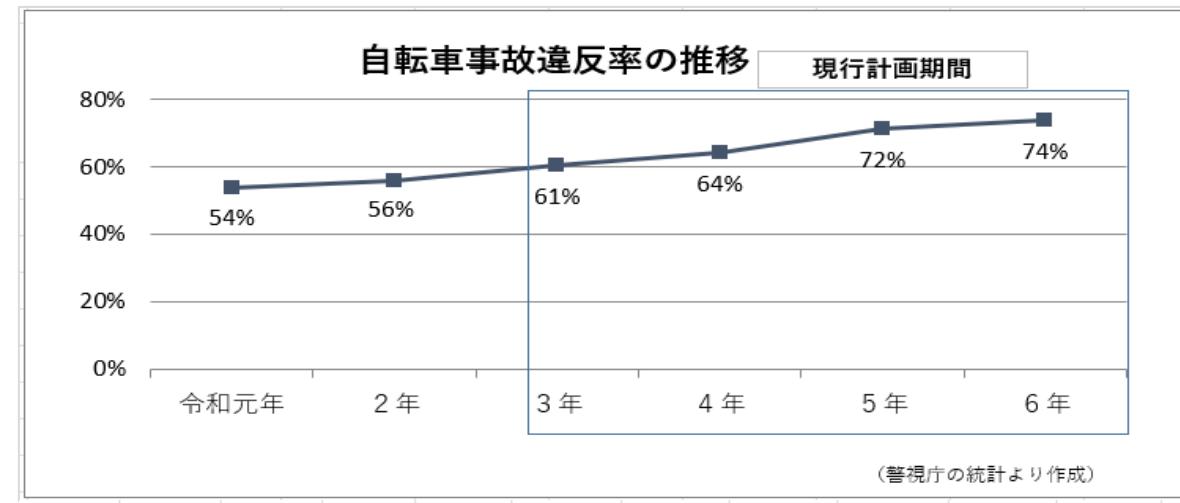


損傷主部位別死者の割合（自転車）

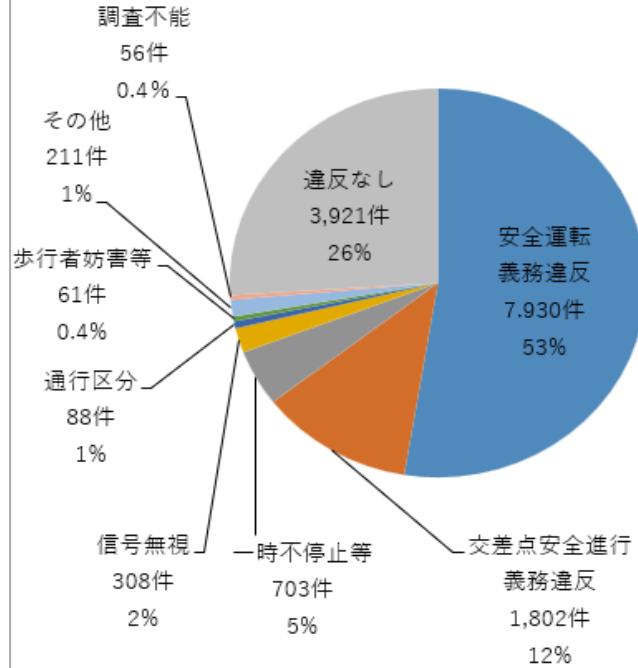


○自転車事故の特徴（違反の状況）

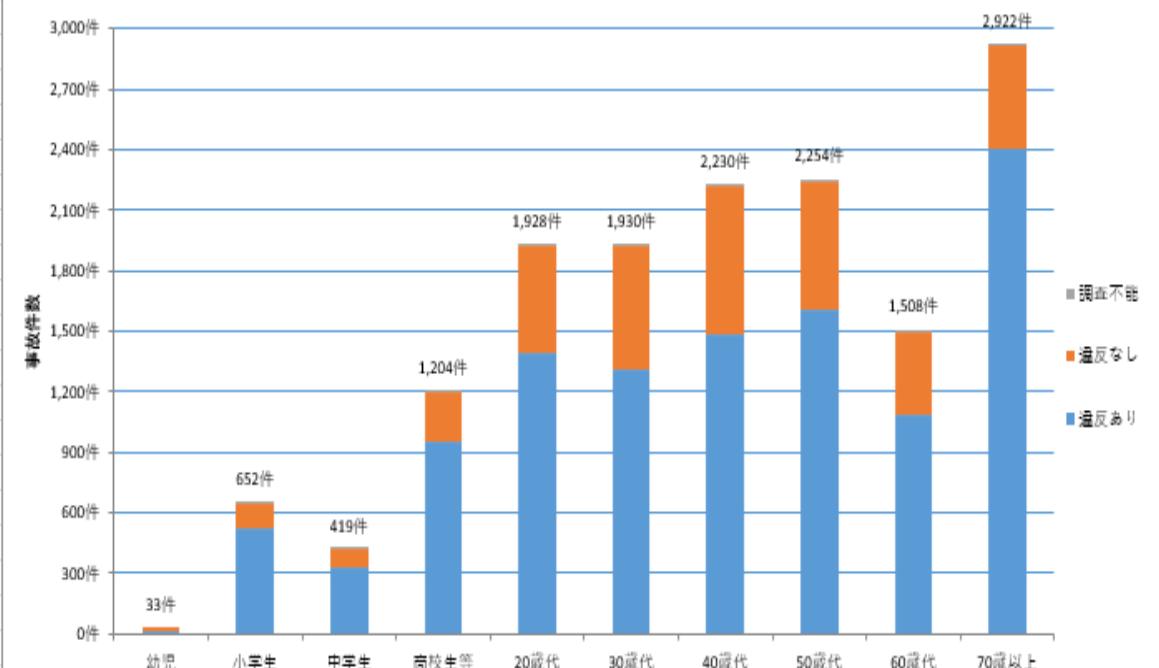
- ・自転車関連事故のうち法令違反のある割合は、年々上昇しており、令和5年以降は7割超
- ・中でも、ハンドル操作不適や安全不確認などの「安全運転義務違反」の割合が半数以上
- ・年齢層別自転車違反状況は、どの年齢層でも違反が多い。特に小学生、中学生、高校生等及び高齢者については、違反の割合が高い。



違反別自転車事故件数（令和6年）



年齢層別自転車違反状況（令和6年）



○自転車事故の特徴（自転車事故件数等）

- ・自転車事故件数は、40歳代～50歳代及び70歳以上が多いが、人口千人当たりの年齢層別自転車事故件数では、高校生等（中卒～19歳を含む）の割合が突出して高くなっている。
- ・自転車乗用中死者数は、65歳以上の割合が依然として高い。
- ・令和6年の自転車の事故を、事故類型別でみると、「車両相互」の「出会い頭」の事故が最も多く、発生件数が4,912件、死者数が12人となっている。

（警視庁の統計より作成）

